

室内環境学と私の学生生活

池田 四郎

東海大学大学院 地球環境科学研究科
〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1

1. はじめに

今回、「薫風」への寄稿の機会を与えていただき、さっそくチャレンジしてみようと意気込んでみました。まず過去に先生方がご投稿されている記事を拝読し直すところから始めてみましたが、最新の知見を紹介されていたり、室内環境学全体に示唆を与えるような価値ある内容ばかりでした。まだ室内環境学を勉強し始めて間もない私は、学生ならではの視点で執筆すべきと考えました。

現在私は、東海大学大学院地球環境科学研究科(後期博士課程)の関根嘉香研究室に在籍しております。そこで今回は、私が日々室内環境学を学ぶ場である研究室の生活を紹介したいと思います。みなさまに懐かしさを味わっていただき、ご笑覧くださいと幸いです。

2. 研究室への配属

私は、2004年に東海大学理学部化学科に入学しました。1年生から3年生までは、教養科目と専門科目を中心とした講義と基礎的な化学の実験授業が全てでした。室内環境学という体系化された講義はなく、環境化学の内容は、分析化学や有機化学、地球環境化学の授業で部分的にテーマとなる場合があった程度でした。

化学科の学生は4年生になると、卒業研究のために各研究室に配属され、1年間研究を行います。1つの研究室に配属される卒研生は6名程度で、指導教員や大学院生の指導を受けながら各テーマを進めていきます。私はこの時に現在の研究テーマである、海洋性バクテリアを用いた環境中微粒子の有害性評価手法に関する研究を開始しました。

3. 研究室での生活

現在当研究室には博士課程の学生が2名、修士課程の学生が5名、卒研生が7名在籍しています。ひとたび全員集まると、実験室はすれ違うのも苦労するほど混雑し、熱気で温暖化します。

当研究室では、「成果を上げること」が何よりも重視されています。基本的には研究計画や実験スケジュールは各自で違いますが、登下校時間や休日のとり方は人によって違います。そのせいか、たいてい誰かが徹夜で実験をやっているため、夜9時半ごろになると、守衛室から「今日も泊まりですか?」と連絡がきます。

研究室全体の研究テーマとしては、室内環境中のアルデヒド、ケトン類の発生や挙動、対策に関するものや、ヒト皮膚ガス中の成分と健康との関係に関するもの、大気および室内環境中の微粒子の有害性、植物同士のコミュニケーションに及ぼす環境変化の影響、環境教育に関する研究等、多岐にわたります。週に1度のゼミナールでは、事前に各自が自分の研究に関連のある文献を読んでまとめた資料を使ってプレゼンテーションをし、その内容に関してみんなで議論をしています。基礎の解説的なものから最新の論文まで網羅され、このゼミナールの時間に新しい研究テーマが生まれることも珍しくありません。

4. 室内環境学会と私

積極的に研究結果を外部に発表していくことも研究室の方針であることから、私は2008年の研究発表大会(船堀)から本学会に参加させていただいております。シックハウスやアスベスト問題については、子どものころから聞いたことはありました。これら諸問題の原因やメカニズム、対策等について日々研究をされているみなさまの中に飛び込み、勉強させていただくうちに専門知識も増え、研究成果を人と社会に還元したいという気持ちも芽生えてきました。

今年は研究発表会以外でも、『室内環境学概論』の出版や、化学物質分科会のお手伝いもさせていただきました。「若手の育成」を重要な課題に挙げてくださっている本学会が、研究者としてだけでなく社会人として成長する場を与えてくださっていることに、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。